

社会科 学習指導案

〇〇市立〇〇小学校
指導者 〇〇 〇〇

1. 日 時 令和3年9月〇日 (〇)
2. 場 所 第5学年〇組教室
3. 学年・組 第5学年〇組
4. 単元名 わたしたちの食生活を支える食糧生産「これからの食糧生産」 (使用図書・日本文教出版)
5. 単元の目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取り組みなどに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の課題を捉え、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決しようとする態度や、学習したことを基にこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食料の安定確保のために自給率を高めていくことや食料生産を進めてことの大切さを理解し、食料生産を取り巻く現状と問題、解決策について、写真やグラフなどの資料を活用して調べて考え、伝え合うことができる。	我が国は食料の多くを輸入に頼っていることに問題意識を持ち、安全で環境に良い食料生産を進めていくことの大切さについて考えることができる。	食料生産を取り巻く現状と問題について関心を持ち、これからの食糧生産について意欲的に調べたり考えたりしようとする態度を養う。

7. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、主な食料の自給率や輸入先などを取り上げ、私たちの食生活を支えている食料の中には、国内の各地で生産されたものだけでなく、外国からの輸入に頼っていることを具体的に調べることを通して、食料輸入をめぐる問題は、私たちの食料を確保する上で重大な課題であること、安定的に食料を確保していくために国内では様々な取り組みがされていることを学び考えることをねらいとしている。そして、これまでに農業と水産業の学習をして明らかになった食料生産に関わる課題や食料自給率の低さから日本の食料生産の危機をどのように考え、今後の日本の在り方を探ろうとするものである。

日本の食料生産は40%を割り、私たちの食生活は輸入に頼らないと成り立たなくなってきている。しかし、安全保障の面からも外国産の安全性や地域環境への影響など、このまま日本の食料生産が衰退していてもいいのかということも課題となっている。そこで本単元においては、「本当の豊かさ」ということを考えながら学習をすすめていきたい。その視点を「生産者にとっての豊かさ」「消費者にとっての豊かさ」「地域環境にとっての豊かさ」の3つとしたい。

生産者にとっての豊かさとは、食料を生産することが十分な生業として成立することである。耕地面積のせまい日本は、価格の面で国際競争力は弱い、安全性や品質の良さでは、十分だと言える。現在、日本の生産者は、各地で様々な工夫や努力を続けているが、一番の生産者にとっての豊かさとは、作りたい作物が美味しくたくさん実り、消費者に喜んでもらうことができるということではないだろうか。

「消費者にとっての豊かさ」とは、様々な食品が、いつもあり余るほど手に入ることが良いことなのかどうかを考えさせたい。世界の中で、日本は大量の食料を輸入しながら、その三分之一を捨てているという実態があり、食品ロスの問題を見ても、家庭から出る廃棄食料は、その半分を占める。その実態から、自分たちの食生活を批判的に見つめ、私たちにとって「本当に豊かな消費者」とは、どのようなものか考えさせ

たい。

そして、「地球環境にとっての豊かさ」とは、私たちの食生活を変えていくことが、地球の環境や世界の人々を守ることにつながるといふ国際的な視点であると考え。外国から食料を大量に輸入するということは、それを運ぶために多くのCO₂を出してしまうということや、食料を大量に捨てることを無くし、余分に輸入することをやめることで、食料不足や栄養不足で苦しんでいる国を救うことができるなど、そんな視点で自分たちの今の生活を見つめ直す機会となれば良いと思う。

(2) 児童観
(略)

(3) 指導観

まず、学習の始めの段階で、これまでの学習で学んだ農業や水産業での課題を整理して、日本の食料自給率を提示し、このままでは、日本は立ち行かなくなるのではないかという危機感を持たせ、自分たちにできないことがないかを考える学習につなげるために、「日本の食料生産は、どのようにすれば安心できるものになるだろうか？」という問題提起をしていきたい。

つぎに、日本がなぜこんなにも食料を輸入するのかを考える。なぜ外国産はそんなにも安いのか、アメリカなどで行われている大型機械などをつかった大規模農業と日本の小規模農業を比較して考え、価格は、外国産の安さには敵わないが、安全性などを考えたとき、自分ならどちらを買うか、選ぶのかを判断させてみる。

そして、本時では、「生産者、消費者、地球環境が豊かになるために、日本の食料自給率について考える」というテーマで「食料生産会議」を開き、全体で話し合い、わたしたちにとって「豊かな食生活」とは、どうということかを考える学習につなげたい。

また、食品ロスなどの問題を提示し、大量の食料を輸入しておきながら、たくさんの食料を廃棄している日本の矛盾、世界で毎年飢餓によって1500万人以上が命を失っている事実などを通して、何か自分たちも変えないといけないという思いを抱いてほしい。

最後に、これまで学んだことや考えたことを整理して、「生産者、消費者、地球環境が豊かになるために」をテーマに、今後、自分たちがどのように行動していけば良いのかを具体的な行動指針として発信していく方法を子どもたちと考えていきたい。

8. 単元の指導と評価の計画 (全7時間)

時	主な学習活動	評価			
		知技	思判表	態	評価規準・評価方法
第1時	<p>○食料品の多くが世界中の国から輸入されていることに気付き、これからの食料生産への危機を感じとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットの写真や家庭での外国産調べで気付いたことを発表する。 ・大豆の自給率のグラフから疑問に思ったことを発表する。 ・食料の輸入先と輸入量の割合を表すグラフから、疑問に思ったことを発表する。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・食料生産や食料輸入について関心や疑問を持ち、現在の日本の食料生産への危機を感じることができている。【思・判・表】(ワークシート) ・食料生産を取り巻く現状や疑問に感じたことについて関心を持ち、これからの食料生産について意欲的に調べたり考えたりしようとしている。【態】(ワークシート・観察)
第2時	<p>○主な食料自給率の変化を調べ、食料輸入が増えている理由を考える</p>	○			<ul style="list-style-type: none"> ・我が国が食料を多く輸入している原因について「農産物」の価格や食生活の欧米化などに関連づけて考えている。【知・技】(ワークシート・発言)
第3時	<p>○食料輸入に対する安全性や食料不足、環境などの問題について資料から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の立場になり、国産・外国産のどちらの農産物を買うかについて話し合う。 ・人口増加と耕地面積の変化のグラフを比べて気付いたことを話し合う。 ・外国産の農作物の輸入の良い点と問題点について、輸入される農作物の変化のグラフやカボチャの国内生産と輸入量の月別グラフから考える。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・食料輸入に対する安全性や食料不足、環境などの問題をグラフや新聞記事の資料から必要な情報を読み取っている。【知・技】(ワークシート) ・食料の多くを輸入に頼っていることに問題意識を持ち、グラフや新聞記事の資料をもとに、農産物の輸入の良い点と問題点について、考えている。【思・判・表】(ワークシート・発言)
第4時	<p>○多くの食料を輸入に頼っても良いのかどうかを調べ、日本の食料生産の問題点について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から食料の輸入に対する問題点を話し合う。 ・人口増加と耕地面積の変化のグラフを比べて気付いたことを話し合う。 ・写真や資料から気候の変化による収穫量の減少や自然破壊が生じる場合もあることを調べる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な消費を実現するためにも、環境破壊等の問題から、日本だけでなく外国とも関りがあることを理解できている。【知・技】(カード「タブレットPC発表ノート」)
第5時(本時)	<p>○生産者、消費者、地球環境が豊かになるために、日本の食料生産についてそれぞれの立場になって考え、伝え合う。「食料生産者会議」</p>		◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの日本の食料生産について生産者、消費者、地球環境、それぞれの立場で考え、伝え合うことができている。【思・判・表】(カード「タブレットPC発表ノート」・観察) ・これからの食料生産について考えることを通して、私たちの生活を支えている食料生産の在り方について、考えを深めようとしている。【態】(ワークシート)

第6時	○国内の食料生産に携わっている人々の取り組みや努力について調べる。	◎		・国内の食料生産に携わっている人々の取り組みや努力を調べ、調べたことを伝え合っている。 【知・技】（ワークシート）
第7時	○「生産者、消費者、地球環境が豊かになるために」をテーマに自分の考えをまとめ発信する。		◎	◎単元を通した最終的な自分の考えを具体的な行動指針として表現している。【思・判・表】（ポスター）

※【知識・技能】の【知識】の記録に残す評価は単元終了時の評価問題で評価する。

9. 本時の展開（5/7時間目）

(1) 本時の目標

- ・これからの日本の食料生産について、生産者、消費者、地球環境、それぞれの立場で考え、伝え合うことができる。【思・判・表】
- ・これからの食料生産について考えることを通して、私たちの生活を支えている食料生産の在り方について、考えを深めようとする態度を養う。【態】

(2) 本時の評価規準

- ・これからの日本の食料生産について生産者、消費者、地球環境、それぞれの立場で考え、伝え合うことができている。【思・判・表】
- ・これからの食料生産について考えることを通して、私たちの生活を支えている食料生産の在り方について、考えを深めようとしている。【態】

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
出会う 7分	1. 前時までの学習をふり返る 2. 本時の学習課題を確認する。 「食料生産会議」 これからの日本の食料生産について、それぞれの立場で考えよう。 3. 日本の食料自給率について、自分の考えが以下のどれに当てはまるかを発表する。 ・食料自給率を上げる。 ・輸入を続ける	○食料自給率が低下している状況がわかるグラフを提示し、問題意識を高める。 ○用語の意味について再確認する。	
向き合う 15分	4. 生産者、消費者、地球環境、それぞれの立場になって考え、ワークシートに自分の考えを書く。	○自分の考えがまとまらない児童には、自分の考えが持てるように助言する。	これからの日本の食料生産について、生産者、消費者、地球環境、それぞれの立場で考え、伝え合うことができている。【思・判・表】（ワークシート）
つなげる 15分	5. それぞれの立場の意見を発表し、これからの食料生産の在り方を考え、伝え合う。	○友だちの意見で、なるほどと思うものをワークシートに書きながら聞くようにする。	

振り返る 8分	<p>6. 学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが以下のどれに当てはまるかを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率を上げる。 ・輸入を続ける。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの食料生産について自分の考えをワークシートに書く。 	<p>○授業での交流を通して、自分の考えは、どう変わったのかを振り返るようにする。</p> <p>○これからの食料生産をどうしていけばいいか自分の考えをまとめるようにする。</p>	<p>これからの食料生産について考えることを通して、私たちの生活を支えている食料生産の在り方について、考えを深めようとしている。【態】(ワークシート)</p>
------------	--	--	---

(4) 本時における具体的な児童の状況

おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・これからの日本の食料生産のあり方について、生産者、消費者、地球環境、それぞれの立場で考えたことをもとに話し合っている。【思・判・表】 ・振り返りを通して、これからの日本の食糧生産の在り方について、どのようにしていけばよいかを考え、表現している。【態】 	<ul style="list-style-type: none"> ・(B) に達していない場合には、ワークシートや友だちの意見を参考にして話をするよう助言する。【思・判・表】 ・(B) に達していない場合には、ワークシートを見返したり、話し合いでの友だちの意見の中で、自分の考えに近い意見がないかを思い返したりするよう助言する。【態】